

カービュー マーケットウォッチ (2011年6月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー(本社:東京都中央区、代表取締役:松本 基)は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

乗用車全体の前年同月比は66.7%と9カ月連続の大幅減

11年 5月順位	11年 4月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	フィット	ホンダ	9,354
2	(3)	↑	ヴィッツ	トヨタ	7,867
3	(2)	↓	プリウス	トヨタ	6,491
4	(9)	↑	セレナ	日産	5,766
5	(4)	↓	フリード	ホンダ	4,605
6	(15)	↑	ラクティス	トヨタ	3,737
7	(5)	↓	カローラ	トヨタ	3,307
8	(7)	↓	マーチ	日産	3,271
9	(6)	↓	ステップワゴン	ホンダ	3,107
10	(11)	↑	ノート	日産	2,904
11	(8)	↓	デミオ	マツダ	2,817
12	(14)	↑	ソリオ	スズキ	2,678
13	(16)	↑	キューブ	日産	2,611
14	(10)	↓	パッソ	トヨタ	2,544
15	(13)	↓	ヴォクシー	トヨタ	2,278
16	(12)	↓	スイフト	スズキ	2,170
17	(20)	↑	インプレッサ	スバル	2,047
18	(17)	↓	ウィッシュ	トヨタ	2,032
19	(19)	→	ノア	トヨタ	1,839
20	(22)	↑	ジューク	日産	1,780

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■乗用車全体の前年同月比は66.7%と9カ月連続の大幅減 ただ前月比は30.6%増と回復基調に！

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した5月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は20万461台で、前年同月比は66.7%と9カ月連続で前年を下回った。3ナンバーの普通車、5ナンバーの小型車、軽乗用車に分けてみると、販売台数はそれぞれ5万7292台、7万1252台、7万1917台で、前年同月比は56.2%、67.6%、76.9%と依然として2ケタのマイナスだが、前月比は141.9%、125.6%、127.5%と大幅な増加に転じ、全体として30.6%増と回復基調になったのが注目される。まだまだ新車の供給不足に加え、消費マインドも低調だが、5月に発売となった「トヨタ プリウスα」に加え、6月には「ホンダ フィットシャトル」の発表や「スバル レガシィ」シリーズのマイナーチェンジが行われ、販売現場ではより弾みがつくはずだ。

輸入車と軽乗用車を除く3／5ナンバーの国産乗用車（新型日産マーチ分含む）は11万3590台で、前年同月比は58.7%。ただし前月比は134.6%と軽乗用車を上回る復調ぶりだ。メーカーブランド合計では、「フォレスター」、「インプレッサ」が前年超えと好調なスバルと、「ソリオ」が「スイフト」を上回る売れ行きとなっているスズキがプラスとなった以外は前年を下回り、特にトヨタが4万3984台、前年同月比42.2%と全体を押し下げた。月間ランキングでは「ホンダ フィット」が9354台で3カ月連続トップとなったが、乗用車全体では1万1186台を売り上げた軽の「スズキ ワゴンR」に及ばなかった。そのほかトップ10圏内では、5位「ホンダ フリード」、6位「トヨタ ラクティス」、8位「日産 マーチ」がそれぞれ4605台／前年同月比102.1%、3737台／同111.1%、3271台／同117.7%とプラスになるなど、明るき兆しも見え始めている。

軽自動車は貨物車を含めた全体でも9万5210台、前年同月比74.6%と8カ月連続のマイナス。5月単月の下げ幅としては過去最低だが、下げ幅自体は前月より15.7ポイント改善されている。各社の工場稼働率は当初見通しより早期に上がっていきそうだけに今後は期待できそうだ。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでも、1万4473台、前年同月比107.9%と2カ月連続で前年を上回った（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では1万8222台、前年同月比131.7%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が3859台で5カ月連続のトップで、2位はBMW（ミニを除く）が2292台で2カ月連続、3位はメルセデス・ベンツで2096台だった。4～8位もアウディ1615台、ミニ916台、ボルボ864台、フィアット508台、プジョー480台で、順位の変動はないが、BMWとミニ以外は前年を上回る売れ行きとなっている。

■ココも気になる！その1

震災被害に苦しんだトヨタ、ホンダが生産正常化を前倒し

完成車工場の被災というより、部品メーカーの工場を含む部品調達網のダメージにより、工場の操業停止に追い込まれた国内メーカー。ただ生産拠点や部品調達先の分布などにより、復旧スピードに差がついたのも事実。例えば、トヨタは完成車工場は中部、九州、東北と分散しているものの、部品調達網は全国に広がっており、震災の影響を大きく受けてしまった。一方、三菱は生産拠点も部品調達先も西日本に集中していたため、5月にはほぼ生産は正常化を果たした。このため、5月の乗用車販売台数（軽含む）ではトヨタが57.8%減だったのに対し、三菱は7.4%減で済み、三菱の販売シェアも前年比で1.3ポイントアップした。

しかし当初はフル稼働に戻るのには11~12月頃としていたトヨタだが、部品メーカーの復旧や代替部品の確保が計画より早く進み、9月には前年並みの1日あたり1万3000台水準に戻ると上方修正された。トヨタ同様に、部品調達に苦しんでいたホンダも6月に入って復旧のめどが立ったとして、完成車工場の休業設定を取りやめ、7月には震災前に計画していた生産水準に回復する見通し。大幅に抱えているバックオーダーも7月末には解消できるとしている。

ただ5月に販売開始となった「トヨタ プリウスα」は月間販売目標3000台に対し、発売約1カ月で5万2000台もの大量受注（2列シート車：約3万8000台、3列シート車：約1万4000台）となっただけに、納期が大幅に遅れる見込み。6月に発売される「ホンダ フィット シャトル」も納期が長期化しそうだという。

今夏の節電対策として、土・日を稼働日にして、木・金を休業とするなど、生産正常化に向け、クルマ業界をあげて取り組んでいるだけに、販売面でのV字回復に注目したい。

■ココも気になる！その2

ニューモデル攻勢で輸入車市場を牽引するVW！

昨年、4万6704台を販売し、国内の海外メーカー製乗用車市場におけるブランドシェアが25.9%（前年比2.1ポイント増）と過去最高になったVW。ただ昨年末から人気モデルが供給不足気味になり、今年2月は前年同月比95.2%と前年割れ、さらに震災の影響で物流網が混乱し、3月も同83.5%と落ち込み、1~5月累計では1万8505台、前年同期比96.2%と前年を下回っている。

とはいえ、世界市場では好調に推移しており、昨年は特にロシア、中国、アメリカで大躍進。中国では前年比37.4%増の200万台近い販売台数を記録し、世界市場全体で約14.0%増の450万台を超えた。VWの乗用車が450万台を超えたのは初めてのことだ。さらに今年の1~5月累計でもドイツで前年同期比3.6%増の24万8800台、ロシアで同99.1%増の3万4400台、中国で15.3%増の71万4200台、北米で同19.7%増の19万4600台と勢いが衰えていない。なかでも世界市場では昨年秋に、日本でも5月に発売されたパサートが好調で、日本市場では今年中に3000台は販売したいと強気だ。

このVWはこのパサートに加え、「ゴルフ」&「ヴァリアント」の期間限定車の投入や「シロッコ」、「トゥアレグ」、「ティグアン」のマイナーチェンジを敢行する予定。先日の上海モーターショーで公開された新型「ビートル」の日本導入は来年になりそうだが、主力モデルのゴルフをバージョンアップするなど、今年序盤の遅れを取り戻そうと積極的だ。エコカーに関しても、トゥアレグに設定したハイブリッドを今後はリーズナブルな価格で投入する予定。電気自動車も3年後には導入したいと意欲盛ん。昨年5年ぶりに前年超となった輸入車市場のリーダー役として期待大だ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
